

刊夕日四十月三



定額一冊金五圓... 電話六三〇〇

ハルピン事變龍城記 (六)

ハルピン日本小學校長 白髮隆孫氏寄

△二月四日

今日は絶好の飛行日和、空は限りなく碧く高く、一片の雲だに認めず、氣温亦暖かにして航空に眺向、今日こそ、かねて聞きたる通り數十台の飛行機ハルピンに來つて猛襲するならんと其機の到るを待ちたりしが正午過ぎに遙かに、南方より爆音聞ゆ、暫くして銀翼を連ね愛國號を交へて見事なる隊形を作つてハルピン上空に飛來し不安と焦燥の十餘日を送つた吾等在留同胞、歡呼のどよめき上る空を南から西へ、西から北へ敵軍の上空を泳ぎながら敵の猛射に應酬して數ヶの爆弾を密集陣地に投下、愛國號の巨艦を眺めて早くも彼等は膽を奪はれ陣地は動搖逃げ足早き彼者は算を亂して潰走し初めた。

前日來の爆弾は捕獲彈を使用せしが、今日こそは吾軍のりう散彈の威力を試練する時が來た、其爆聲、其攻撃力到底前日の比にあらず敵の損害、潰走の状況は筆紙に盡し難い〇〇本部に居並ぶ飛行將校連は出場して自らり、彈の威力を試みたく焦燥せる有様は實に頼

母しい限りであつた。

五時頃には既に日本軍騎兵の一部は松花江々岸に、其他の一部は既に志士の碑より病院街に侵入し敵を追撃し、吾後續部隊は裝甲列車にて漸次北進將に一舉ハルピンを抜かんとし、事態瀾々積極化した。

本部よりは各中隊に「中國語に堪能なる士を一名宛派遣すべし」と電命あり、選ばれたる士はかねて習得した語學を以て、國家危急に奉仕せんと眉宇に決意を表し萬歳歡呼の中に各避難所を出發した。

暫くして又本部より「各中隊より七名の決死誘導隊及び衛生隊を出すべし」と命令あり、各中隊にては青年(可成單身者)にして元氣ある士を選定し、出發の準備、命令一呵、直ちに出發せしむる様其時の來るのを待つてゐた。

△二月五日
午前五時本部より「今から戦闘は開始されます」との電話があつた、暫くして砲聲股々として天地を

通過本部の方へ」

と、本部より「日本軍本部へ一ヶ中隊到着、埠頭區に向つて行進す」と、邦人は途に人垣を造つて軍軍の勇姿を迎えんと日

の丸の旗を手にして、門を排し出る。かゝる時に裝甲自動車二輛、續いてタンク七台、狂ひ喜ぶ人垣の中を堂々と進軍す、日本人の萬歳、ロシア人のウラ！ウラ！

愛國號第一號機は十時半哈爾濱の上空に飛來、二極樂寺方面に於てばく彈數個投下、敵陣地に炸裂し敗兵は四散し一部は傳家甸方面に逃亡せしめ郊外に於ける彼の砲聲は股々として市中を壓し、一聲又一聲と近郊に聞え邦人は各屋上に登り日章旗を振り吾軍の入城を待ち焦がれた、かゝる時に義勇隊本部より

「日本軍只今總領事館前に到着、北へ向つて行進中」と、第〇中隊本部より「日本軍只今、本中隊前

旭硝子株式會社製品

板ガラス

製造 硝子食器
販賣 菓子壘
其他 各種

松崎硝子製作所
平町新川町(電話一四二番)
支店工場 仙臺市榮町 電話五九四番

花環 花籠 華蓮

造花

新らしく安い
靈松自動車御用

町新川町
本橋屋
電話一三六番

花柳科専門

木村外科醫院

入院自炊の便あり
平町五丁目橋際
電話三〇九番

小兒ノかんむしニあかひき丸堀藥局
平町二丁目
電話三二六

貨切の...

御用命は?

獅子吼(四四九)ノ勢デ
マツサキ
眞先ニ.....(マツサキ)
三九ニタクシーへ!!!

生徒募集

一、卒業年限 兩科通ジテ一ケ年
一、入學資格 高等小學卒業又ハ同等ノ學力アル者へ無試験入學ヲ許ス
一、申込期日 四月八日迄

平一丁目
石城産婆學校
校長 鷹崎 千代
電話三五七番

江戸前料理

大和漬 お鬼からやきもつやき
御重辨當五十人分揃へました

ゼヒ一度御試食下さい.....
出前迅速 錦水
田町末廣東隣り(電話四五四番)

月曜言論

平信用組合の重要性

以前は平信用組合の總代人や理事等の役付きとなる事を非常な迷惑と感じ、容易に快諾する人がなく、此の役付きを押付けるのは仲々の骨折であつたと聞く。然るに今回の總代人改選に當つては、候補者が雨後の筍の如く續生し、組合員の委任状争奪に物凄く競争を演じ、各町頗る緊張、町議戦以上の熱度を上げて數日を闘つたのである、或る人は此の状況を見て、金融機關に迄も政黨が添透して人心の離反する弊を嘆じ、又或る人は、お祭り氣分の選舉騒ぎに平和を亂す選舉症神經衰弱時代の出現を憂ひた。然れ共以前は迷惑として顧みなかつた總代人を目標として、斯くも亂舞進撃する所以のものは、もつと痛切に、もつと深刻に、根ざす欲求の現れあるを知らねばならない、即ち是れは平庶民金庫が平町の金融機關として頼れる力を漸く認識され得た結果に外ならぬのである、斯く思ふ時、此の中心機關の役付き獲得は生活に即した重大な意義を有するものであり、他の名譽職争奪の如き空名を追ふのとは違つた眞剣味を帯びるは當然である。而して幾多の波瀾を巻き起した選舉は終了した、此の上は選んだ人々が自己の職能の重

大性に顧みて眞に産業組合の趣旨に則り、私利私情を去つて至公至平の立場から組合の原動力たる働を充分に發揮し組合の助成に當られん事を願ふものである。

伏見町長の抗議に

監督局から回答

地下試堀は一部分だから

平町に危害なしと

仙臺嶺山監督局が石城郡内郷村磐城炭礦の平町地下試堀を許可した爲め伏見町長は地盤の變動を憂慮し去る八日監督局に對し嚴重な抗議書を提出した處本日同局から試堀區域は下川原及び五色町の百卅坪餘の地下であつて平町の一部分であるから危険を生ずるが如き惶れなしとの回答が來た

抱込品多く

木炭製産制限

濱三郡木炭同業組合の二月中に於ける製産木炭は十三

平庶民金庫の

總代人決定

昨日選舉執行

廿四日頃顔合

信用組合平庶民金庫の總代人廿名の選舉は昨日午後一時より各區に於て執行當選者左記の如く決定したが第一回の總代人會は来る廿四日頃開かれ理事改選も他重

- ▽第一區 會川卯三郎 植頭鶴松
- ▽第二區 金成泉一郎

に發揮し組合の助成に當られん事を願ふものである。

共濟委員が

事務を打合

縣知事の挨拶

- ▽第四區 諸橋國松 丹野周一郎 岡田千藏
- ▽第五區 久保田六五郎 岡田政次郎 高野吉太郎
- ▽第六區 高橋龜松 多田井笑次郎
- ▽第七區 藤田榮助 佐藤榮一 色川勝三郎
- ▽第八區 加藤敬義

共濟委員が事務を打合

縣知事の挨拶

石城郡下に任命された共濟委員事務打合會は昨十三日午前九時より九トモホール

に 縣知事代理松下社會課長 照沼社會主事補、小針縣屬伏見町長、各共濟委員出席開會され、諸般の事務を打合せ午後四時より晚餐會を開いた尙當日松下課長が代讀した知事の挨拶左記の如くである

の情誼に基き個人的接觸に依り關係方面の社會的缺陷者及其家族の生活状態を調査し之が保護指導の途を講じ其の改善向上を圖るを本旨とするものでありまして各種社會施設中極めて重要な使命を有しますことは今更贅言を要しないこととあります

遺憾なからしむる爲め從來の委員制度に一大刷新進を加ふると共に委員設置區域を從來の三市四十七ヶ町村より三市百六十六ヶ町村に委員定数を從來の八十五名より三百六十六名に夫々増加し本制度の充實整備を計つたのであります

時計眼鏡

トキワヤ 平一電三三九

平町人專

- △三丁目二十 田仲美福氏
- △二男 英二
- △田町一七 金子正次氏長女 智子
- △鎌田町卅一 佐藤金吾氏
- △(二四)双葉郡廣野村字折木長谷川カネヨ(二一)
- △回死 亡
- △一丁目十一 白土眞琴(二三)

ラヂオ実験所を設けて 各會場にニュース放送

農家の副業製品三百點など 産業博の内容益々充實

昭和産業博覽會の諸準備が整ふと同時に各地の官廳及び會社より種々出品申込が續出して居るが農林省及び日本産業協會では協力して農家經濟の普及の爲め農家副業製品三百點を第三會場に出品する外日本放送協會では第一會場にラヂオ實驗所を設置してラヂオの實際狀況を知らしむと共に各會場にスピーカーを置いてニュースを放送するが逓信省でも第一會場に既記の如く臨時郵便局を設置する外第一第二兩會場には公衆電話を特設すると

産業博の内容益々充實

田字北澤一番地鈴木清政(三)が去る六月十八日午後十時頃上小川村大字上小川字空機地内平小野新町線鐵道に於て口論の末平窪村大字下平窪字曲田二十四

發火信號で 列車が難を免る

傾城トンネル出口の崩壊に 殊勳の工夫

原因不明 平町騒擾小路一九古物商室

常磐線湯本、綴間の傾城トンネルの綴方面出口の前方百米地點線路で十二日午後十一時半頃突然平窪餘の岩石崩壊し上下鐵道線路埋没して居るのを平窪線區綴詰所工夫黒田勇(三)江尻四郎(三)の兩名が発見急を告げんとした際上野發仙臺行二百卅七號旅客列車が湯本驛を十一時四十三分に發車して進行して來たので兩名は傾城トンネル内にダイナマイトの發火危険信號をなしたので右列車は其爆音に依つて崩壊箇所五間餘の地點に急停車をなし危く轉覆を免れたが急を聞いた平窪線區及水戸保線區では工夫

壯丁の 虎眼

平町檢診

平町本年度に於ける徴兵受驗者百卅名に對して十八日午前九時より町役場會議室にトラホーム檢診を執行する事になつたので壯丁者は全部出頭受檢され度いと

殺人事件 公判

廿六日に開廷

石城郡赤井村大字赤井字鹽

た貨物自動車を避けんとし、傍らの溝に轉覆同乗せる齊藤は顔面其他に全治二週間の裂傷を負つた

奉安庫に 生垣植付

平青年團が

平青年團にては平第三小學校奉安庫に生垣を造る爲め十二、三の兩日樹木の植付を爲した

引分け

磐崎と渡邊

石城郡磐崎村實業補習學校劍道部では陸軍紀念日當日渡邊村補習學校に遠征し劍道對抗試合を行つたが兩校選手善戰の結果遂に引分けにあつたと

原因不明 平町騒擾小路一九古物商室

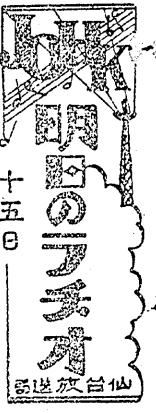
騒擾小路の火事

平町騒擾小路一九古物商室井徳治方より十四日午前二時半頃發火して同家を全焼隣家梶山丑次郎方に燃え移つて二棟を全焼し午前三時半鎮火したが原因は目下平署で取調中で損害約二千圓餘である

川角選手 卓球優勝

卓球優勝

既報大塚運動具店主催の郡下オールボーイ卓球選手権大會は昨日午後一時より常磐銀行樓上に開催さ



今晚は北風の風小雨明日は北西の風次第に天氣上る

今晚の部

後六、〇〇 童話「西洋浦島」新井北西
後八、〇〇 講演「國民融和に就て」文部大臣 鳩山一郎
後八、三〇 この花節(堀江濱舞場より中斷)「娘嬢」娘
九、三〇 時報 奉天より放送「滿洲國の制度について」奉天日日新聞社

明日の部

後九、四〇 全國ニュース 時報 氣象通報
前九、一〇 料理献立「パティシエ」朝倉長吉
「前」朝倉長吉
「食血を治す養法」養研究所 駒井壽美子
後〇、〇五 音曲「吹き寄せ」すゞめや 榎之助

野菜泥

懲役八ヶ月

石城郡川部村大字小川字橋本十三番地日雇渡邊秀男(四)が去る六月十二日頃より本年二月迄の間前後二十八回に亘り同郡植田町大字植田字林内小川保峯外二十名所有の里芋其他野菜雜品等合計約六十圓相當の物を窃取した窃盜事件は一日午後二時半より平區裁判所に於て關口判事係り山本檢事立會の上公判開廷檢事の求刑通り即日懲役八ヶ月を言渡された

小川飛機寄附

石城郡小川村青年團では義勇機福島號の建造資金を募集する事になつたので十四日より團員が全村に亘つて募集中

平職業紹介所報告

求人部
洋服徒弟 一八位 尋卒
仕着小使(平町某洋服店)
難役 廿才以下 尋卒
月五圓(豊間村某鮮魚商)
兒守兼難役 十五才 尋卒
年十圓(渡邊村某)
求職の部
商店難役 廿八才 尋卒
給料面談(石川郡某)
給料面談(湯本町某)
給料面談(湯本町某)
給料面談(湯本町某)
事務員 廿六才 平商卒
給料面談(平町某)
運送店積取 卅八才 高卒
給料面談(茨城縣某)
電機工夫 廿六才 高卒

婦人看視は

既報昭

博の婦人看視員採用試験は昨日平町會議室にて執行されたが其結果に徴して證衡の上廿日迄に決定發表する

後二、〇〇 家庭大學講座「心得置くべき醫學の知識」醫學博士 平松鶴吉
後六、〇〇 (子供の時間) 童話劇「シユリアス。I」(ザ) BK コドモサークル
後七、三〇 趣味講演「演劇と時代」仲木貞一
後八、〇〇 新内一關取千兩帳「稲川内の段」淨瑠璃富士松綱太夫 三味線 富士松綱三郎
後八、三〇 映畫物語「ドレイダ」ホーン 松山王葉
後八、五〇 獨唱宮川美子
伴奏 實塚交響樂協會
後九、二〇 管絃樂 鑄造モジロフ作曲 實塚交響樂協會指揮 ヴェラスカ
後九、三〇 奉天より
給料面談(好間村某)

美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

上田外科醫院

平町 南町
電話二一九番

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉 演
近藤 紫雲 畫

【第一幕】
神影流の達人秋山要介 (1)

今日より演題の如く文化文政より慶應の末年にかけて剣道にて名高き人物の経歴談を申し上げます、先づ最初に關八州の俠客仲間にて此人の名を知らぬは恥といいたした秋山要介の傳記から申上げることに致します。

偕て秋山要介は武州入間郡川越の城主松平大和守直温侯の藩士に神影流の劍術指南役秋山要左衛門の嫡子幼少より才智に富みそれに劍道にては天才、もう十五六才の時には父に代つて門弟に稽古をつける、親父も喜んで居りました、處が十八の頃より酒を飲む、酔うと亂暴な事をする、これが玉に瑾、父「要介、此處へ參れ申し聞する事がある」要「どういふ御用でございませうか」父「知られる通り俺も追々老境に入つて大分様子が違つて參つた、そこで其方に家督を譲つて一日も早く隠居いたし度く思うが、どういふものか其方は酒を飲むと様子が變る、腹に酒が入ると前後を識別するその智慧が徳利の中に入るやうだナ、人と争つた

し、又刀を引抜き暴れ廻る此事が殿様の聞く處となると重きお咎めを受ける、依て今日より禁酒いたせ、好める物を止めると申すは無慈悲な様ではあるが、飲まざるも生命に障りなき酒ゆへ「乾度慎め」要「誠に恐れ入りました、私とても酒癖



の宜くない事は存じて居ります、然し酒の香を嗅ぎますと、サア飲め〜と腹の虫が打揃つて侷めまます、幸棒いたせと叱言を申したとて腹の中に居る虫の事とてこの叱言が聞えぬものと見えまして、また飲まぬか

〜と催促いたします、然し今度は断然禁酒をいたします、讃岐の金比羅宮に誓を立て益も取らぬやうにいたします」父「然うか、それを聞いて俺も安心いたしました、當家は松平家には譜代の家來、家祿は百五十石、それを貴様に譲るとは云へ此上にも酒を呑んで放蕩いたせば、家名には替へ難きゆえ勘當いたす」要「承知いたしました、必ず禁酒誓ひを立てた父要左衛門は大層喜んだ、スルと翌日城下の用達を済まして戻つて來た要介、廊下でバツタリ

父に出會つた其時要左衛門は父「要介待て〜」と云はれて要「御用でございませうか」父「又酒を飲み居つたナ」要「能く判りましたナ」父「能く判つたとは何だ、香がいな、コレ要介貴様は禁酒したであら

う」要「それは断ちました、然し讃岐の金比羅宮まで此處から二百里もございませう、昨日禁酒をいたした事はまだ先方に知れませう、其内は飲んで宜しかうと存じまして」父「イヤ不埒な奴、爾來酒を飲んではならん」要「氣をつけることゝいたします」と云つたが折々益を取る、要左衛門も知つては居るが、亂暴を働かねばそれで宜からうと可愛いから見逃して置いた、内に要左衛門は病に胃されたが、日を追ふて快しくな、さあ要介が心配して今度は事實禁酒して父の病氣全快を祈る、一月餘り帯を解いて寝たこともなく、看護に手を盡した、然し定命が要左衛門は六十歳を一期に世を去つた。

これより十日ばかり経て母も急病にて死去いたしました、要介はその當座佛間に引籠り同向ばかりして泣いて居ります、門人は申すまでもなく親戚知己が種々慰める、そこで漸く氣を取直して家督を相續いたし、門人に教へることになつたが何につけても兩親の事を思ひ出す、その鬱を晴す爲に酒を飲む、酔うともう稽古をするは面倒になる、門人は道場に出て「先生、お稽古を願ひます」要「イヤ叶かん、今日は客がある、それゆへ稽古は休みだ、明日參るが宜い」○「ヘエ、來客だと仰います、誰方もお在でが無い様ですナ」要「今は居らぬが後刻參る

さア〜、今日は歸れ〜と云はれて門人は戻り、翌日來ると未だ客が逗留いたして居ると云つて追拂う。

梅毒 淋病 皮膚病 婦人病
林科 腸胃病 胃性 腸病
門專 十二指 腸虫病
院醫科 松村 南平町
 ○七一話電

貴金屬 時計及眼鏡類 懷中電燈 キミガヨ電氣
高橋時計店 平町掻掻小路
 ランプ特約店

門專
 産科 婦科 花柳病科
 ◎入院應需
井坂醫院
 平町田町 電話五五九番

炭石
 まあ！ よく、此の品が 頂けますこと
 わたし お隣りへも お奨め しませうかしら
 (良い品を安く賣る店) 一
 電話三三七番
阿部石炭商店

お醤油は ヤマフル
 醤油味噌 たひら 正宗 鹽屋 饅節 食料品
山崎合名會社
 福島縣平町電話營業部製造工場
 明治生命磐城代理店 山崎與三郎